
闇からの音

紅佐洲仮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

闇からの音

【Nコード】

N2291M

【作者名】

紅佐洲仮

【あらすじ】

群馬の研究施設での一件から2週間が経った。組織の影は無く、何時もと変わらない日常が戻って来たと思われていた。しかし、コナンや灰原の知らない場所で組織は徐々に二人に近付き出していた。そして、警視庁捜査一課に配属された嶋村の怪しい行動…。彼は何者なのか？組織との戦い長期シリーズ第4弾！

第0章 く始まりへ…く（前書き）

お久しぶりです、紅佐洲仮です。事情により前のアドレスを忘れてしまい、新しく作り直しました。前に書いた小説の続きや続編は途中から書いていくつもりなのでよろしくお願いします。

第0章　く始まりへ…く

あの時…、灰原と博士の前で発した『嫌な予感』

そんな予感は早く頭から消えて欲しかった。

それと同時に外れて欲しい…当たって欲しくない…と何度も願った。

しかし、その『嫌な予感』は俺の願いも虚しく的中してします。

これから起こる全ての事が…、

あの時、発した『嫌な予感』に含まれていたのかも知れない。そう思った時はもう遅かった。

気付く事が出来なかった。奴等の黒い足音は俺達の目の前まで来ていた事に…。

そして…、守れなかった…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2291m/>

闇からの音

2010年11月20日01時39分発行